MGC

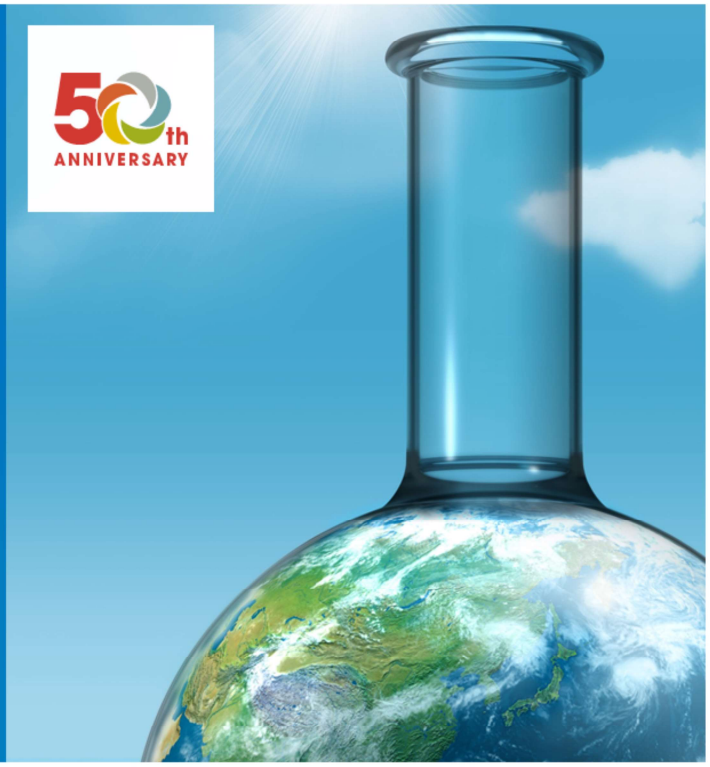
2021年度 第2四半期

決算説明会

三菱ガス化学株式会社

2021年11月9日

証券コード
4182



目次

1 | 2021年度 第2四半期 決算概要

2 | 2021年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

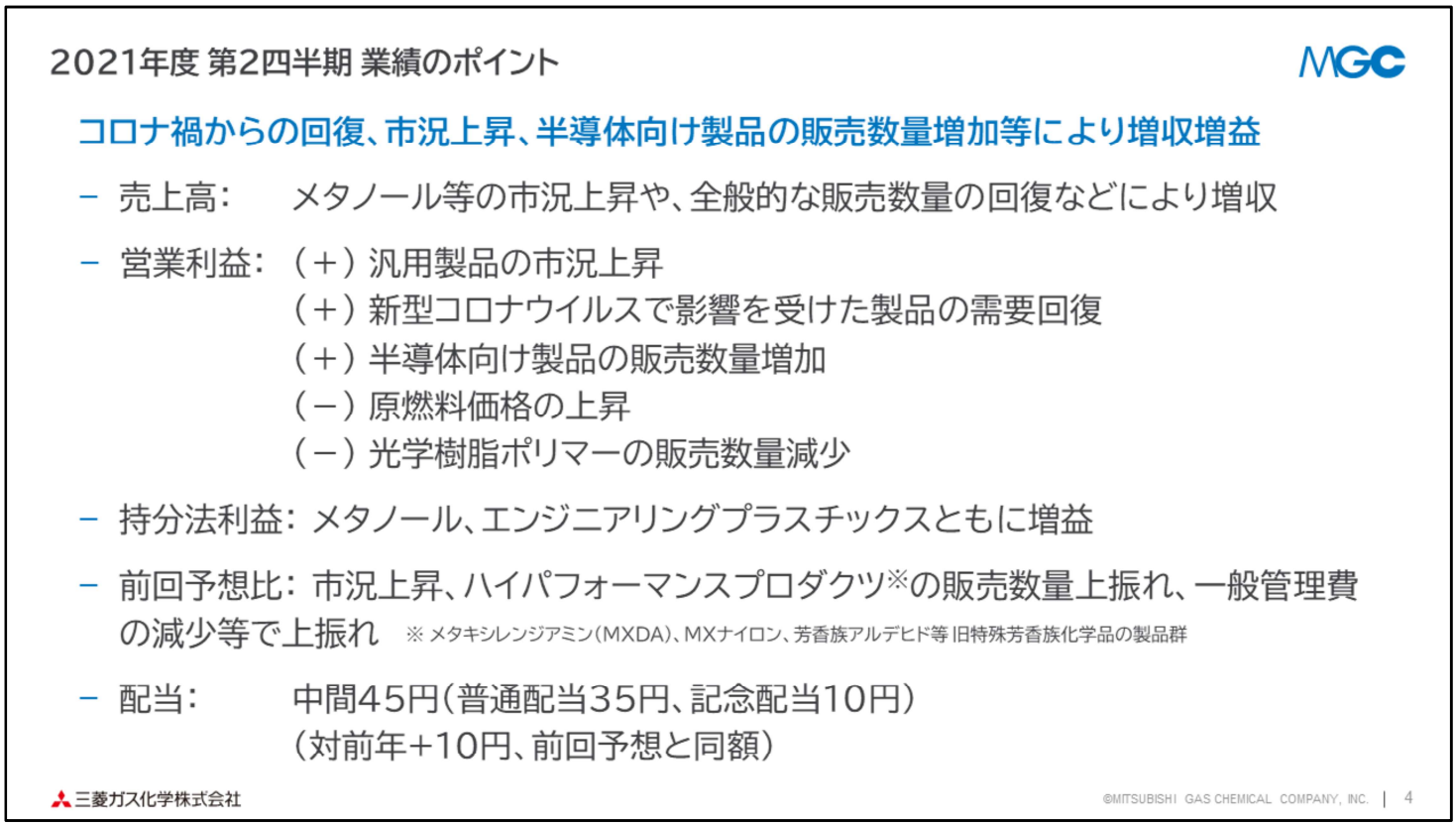
1 | 2021年度 第2四半期 決算概要

2 | 2021年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.



はじめに4ページ、2021年度第２四半期業績のポイントについてご説明します。

新型コロナウイルスで影響を受けた製品の販売が回復したことに加え、市況の上昇や、半導体向け製品の販売数量増加もあり、増収増益となりました。

営業利益段階では、原燃料価格の上昇や、光学樹脂ポリマーの販売数量減少などのマイナス要因がありましたが、市況の上昇や、コロナ禍からの回復などのプラス要因が上回りました。

持分法損益は、メタノール、エンジニアリングプラスチックスともに前年を上回り、増益となりました。

なお、中間配当については、普通配当35円に、50周年記念配当10円を加えた45円となります。

2021年度 第2四半期 業績サマリー

MGC

－ コロナ禍からの回復、市況上昇、半導体向け製品の販売数量増加等により増収増益

単位：億円	2021年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	増減 金額	増減 %	2021年度 2Q累計 前回予想*
売上高	3,358※	2,666	692	26.0	3,300
営業利益	300	143	156	109.0	240
（持分法利益）	(69)	(17)	(52)	－	(69)
経常利益	387	165	222	134.3	310
税金等調整前四半期純利益	384	177	206	116.3	310
親会社株主に帰属する四半期純利益	281	142	139	97.7	230

※ 2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。同会計基準の適用による減収影響は171億円です。

＊2021年8月6日公表

一株当たり四半期純利益（円/株）	135.50	68.54
為替レート（JPY/USD）	110	107

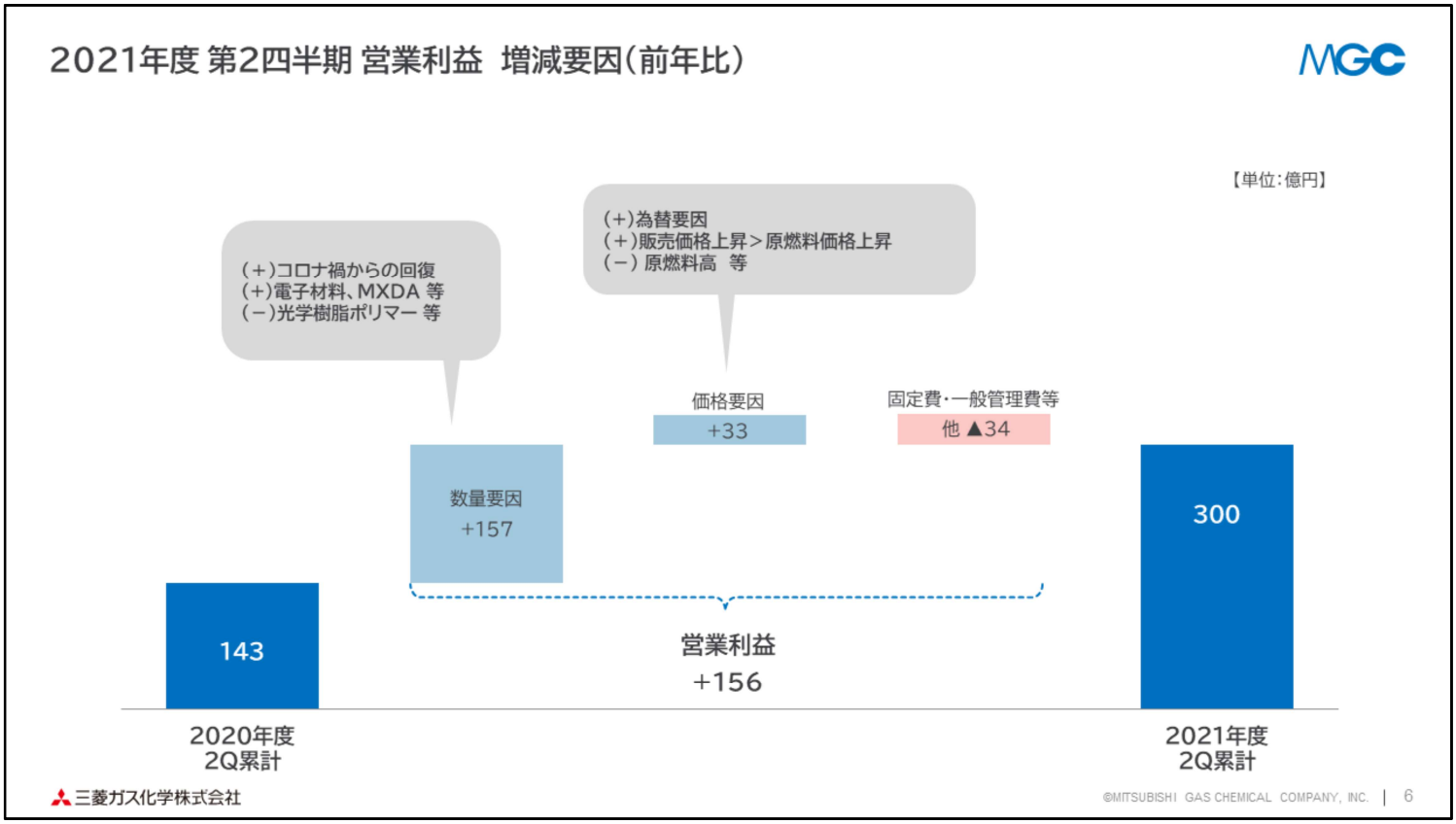
（注）本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて、5ページ、2021年度第2四半期の業績概要をご覧ください。

売上高3,358億円、営業利益300億円、経常利益387億円となりました。



6ページに、2021年度第２四半期の営業利益の増減要因を対前年比で示しております。後ほど、ご参照願います。

2021年度 第2四半期 営業外損益・特別損益

単位：億円	2021年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	増 減
営業外損益	**87**	**21**	**65**
持分法による投資損益	69	17	52
金融収支	18	16	1
為替差損益	1	▲ 0	2
その他	▲ 2	▲ 10	8
特別利益	**21**	**15**	**6**
段階取得に係る差益	7	-	7
受取保険金	7	-	7
投資有価証券売却益	6	12	▲ 6
その他	-	2	▲ 2
特別損失	**▲ 24**	**▲ 3**	**▲ 21**
減損損失	▲ 13	-	▲ 13
貸倒引当金繰入額	▲ 7	-	▲ 7
関係会社事業損失引当金繰入額	▲ 2	-	▲ 2
その他	▲ 1	▲ 3	1
特別損益合計	**▲ 3**	**12**	**▲ 15**

(注)本表の増減は対損益増減を示しております。

● **持分法損益**
基礎化学品 +21
機能化学品 +30 等

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて、7ページに営業外損益・特別損益、8ページに貸借対照表、9ページにキャッシュフロー計算書を記載しておりますが、時間の関係上、説明は省略させていただきます。

2021年度 第2四半期 貸借対照表

単位:億円	2021年9月末	2021年3月末	増 減
流動資産	**4,143**	4,021	121
現預金	**884**	1,017	▲ 133
売掛債権	**1,645**	1,590	55
棚卸資産	**1,441**	1,212	228
その他	**171**	200	▲ 28
固定資産	**4,529**	4,342	187
有形固定資産	**2,590**	2,499	91
無形固定資産	**108**	104	3
投資その他の資産	**1,830**	1,737	92
資産合計	**8,672**	8,363	309

単位:億円	2021年9月末	2021年3月末	増 減
負債	**2,580**	2,549	30
買掛債務	**889**	753	136
有利子負債	**913**	984	▲ 71
その他	**777**	811	▲ 34
純資産	**6,092**	5,814	278
株主資本	**5,365**	5,144	220
その他包括利益累計額	**127**	97	29
非支配株主持分	**600**	571	28
負債・純資産合計	**8,672**	8,363	309
自己資本比率	**63.3%**	62.7%	

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

2021年度 第2四半期 キャッシュフロー計算書

単位:億円	2021年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	増 減
営業キャッシュフロー	234	330	▲ 95
投資キャッシュフロー	▲ 310	▲ 165	▲ 145
フリーキャッシュフロー(差引)	▲ 75	165	▲ 241
財務キャッシュフロー	▲ 156	148	▲ 304
現金及び現金同等物に係る換算差額等	16	▲ 12	28
現金及び現金同等物の増減額(合計)	▲ 216	300	▲ 517
現金及び現金同等物の期首残高	910	700	210
連結子会社増加に伴う現金増加高	15	-	15
現金及び現金同等物の期末残高	709	1,000	▲ 291

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

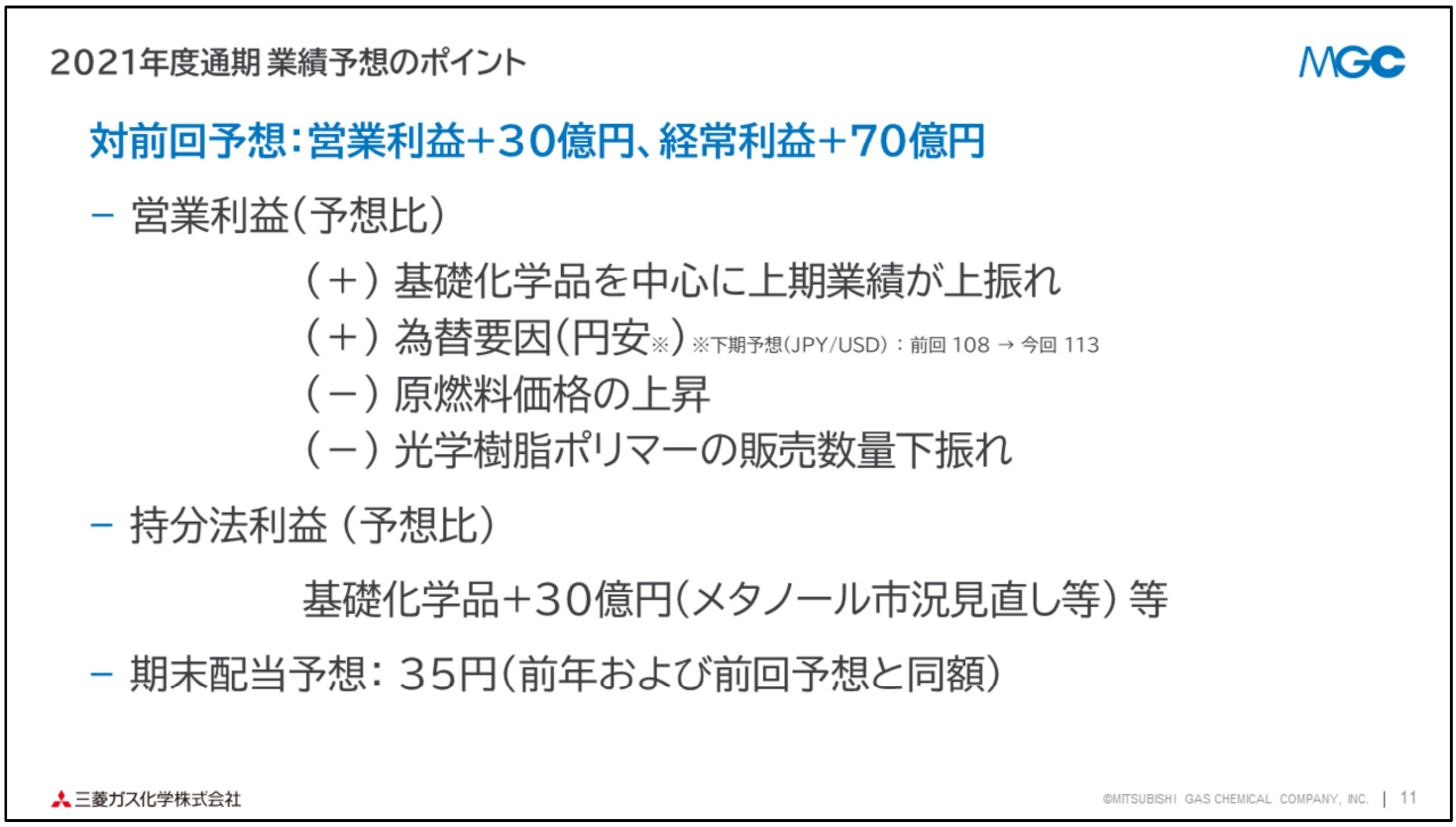
1 | 2021年度 第2四半期 決算概要

2 | 2021年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.



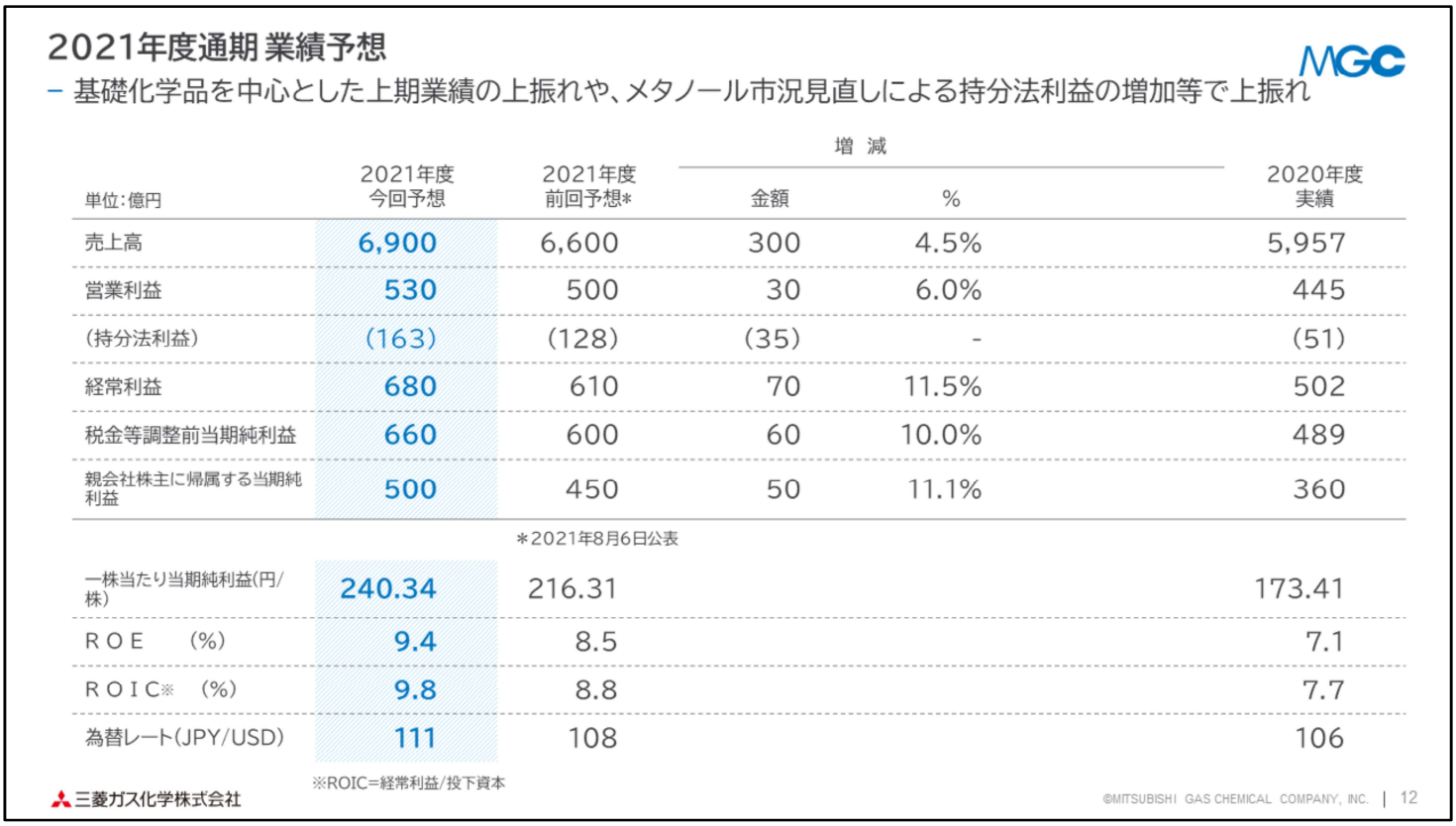
11ページは、2021年度通期業績見通しのポイントを示しております。

11月5日の決算発表と同時に業績予想を修正いたしましたが、対前回予想で営業利益で30億円、経常利益で70億円の上振れを見込んでおります。

営業利益は、原燃料高などの下振れ要因があるものの、基礎化学品事業を中心に上期業績が上振れたことに加え、為替相場が円安傾向で推移していることなどから、上振れを見込みます。

持分法利益は、メタノール市況の見直しなどによる増加を見込み、前回予想を上回る見通しです。

期末配当については前年および前回予想と同額の35円を予想しております。



2021年度通期 業績予想

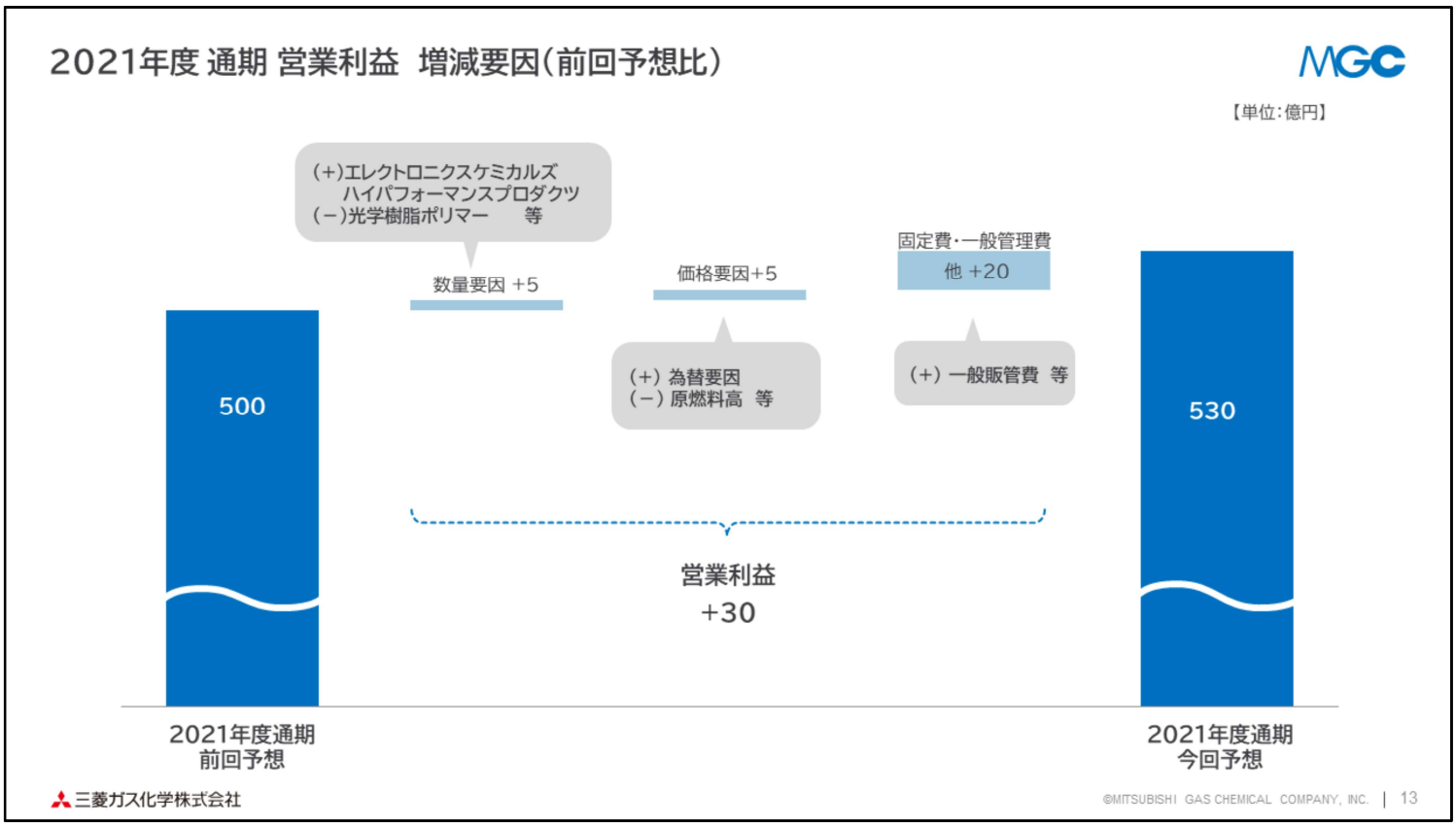
－ 基礎化学品を中心とした上期業績の上振れや、メタノール市況見直しによる持分法利益の増加等で上振れ

単位:億円	2021年度 今回予想	2021年度 前回予想*	増減 金額	増減 %	2020年度 実績
売上高	6,900	6,600	300	4.5%	5,957
営業利益	530	500	30	6.0%	445
(持分法利益)	(163)	(128)	(35)	-	(51)
経常利益	680	610	70	11.5%	502
税金等調整前当期純利益	660	600	60	10.0%	489
親会社株主に帰属する当期純利益	500	450	50	11.1%	360
		*2021年8月6日公表			
一株当たり当期純利益(円/株)	240.34	216.31			173.41
ROE (%)	9.4	8.5			7.1
ROIC※ (%)	9.8	8.8			7.7
為替レート(JPY/USD)	111	108			106

※ROIC=経常利益/投下資本

12ページは2021年度通期 業績予想の概要を示しております。

売上高6,900億円、営業利益530億円、経常利益680億円を予想しております。

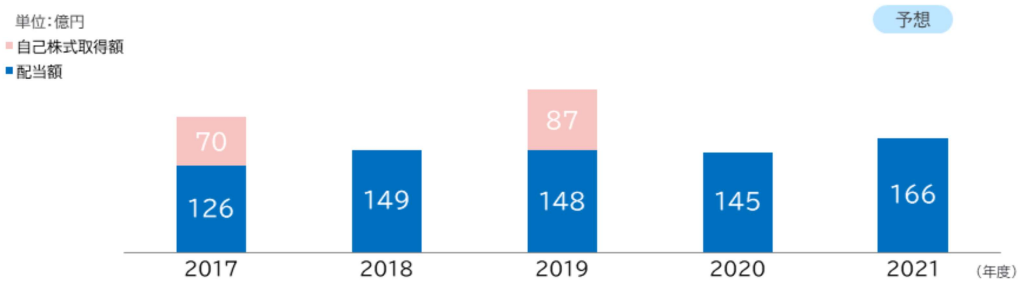


13ページは、2021年度通期営業利益予想の増減要因を、対前回予想比で示しております。後ほど、ご参照願います。

株主還元方針・株主還元

- 企業価値の向上を経営上の最優先課題と位置付け
- 配当は、安定配当の継続を基本に業績動向等を考慮して決定
- 内部留保の水準と株主還元の水準を勘案して、自己株式の取得も機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図る
- 今年度から株主還元方針をより明確化、総還元性向40%を中期的な株主還元の目安とする

上記方針に基づき、2021年度の配当は80円※を予想



	2017	2018	2019	2020	2021
当期純利益（億円）	605	550	211	360	500
年間配当金（円/株）	59	70	70	70	80※

※中間配当45円(記念配当10円を含む)、期末配当(予想)35円

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

14ページは株主還元について示しております。

こちらに記載の方針に基づき、株主還元を実施しており、「総還元性向」については40%を中期的な目安としております。

具体的な還元については単年度ベースで機械的に適用するものではありませんが事業の拡大・成長のための内部留保とも両立できる水準と考えております。

以上により、2021年度の配当は80円を予想しております。

1 | 2021年度 第2四半期 決算概要

2 | 2021年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

単位:億円	2020年度実績			2021年度(前回予想)*			2021年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	2,666	3,290	5,957	3,300	3,300	6,600	3,358	3,541	6,900
基礎化学品	1,468	1,909	3,378	1,945	1,957	3,902	2,009	2,105	4,114
機能化学品	1,240	1,437	2,678	1,379	1,366	2,745	1,375	1,468	2,844
全社/調整	▲42	▲56	▲99	▲24	▲23	▲47	▲26	▲32	▲58
営業利益	143	301	445	240	260	500	300	230	530
基礎化学品	3	124	128	114	89	203	158	88	247
機能化学品	153	194	348	145	190	335	159	161	320
全社/調整	▲13	▲18	▲31	▲20	▲19	▲39	▲18	▲20	▲37
経常利益	165	336	502	310	300	610	387	293	680
基礎化学品	14	128	142	139	118	257	191	131	322
機能化学品	159	216	375	186	201	387	207	178	386
全社/調整	▲7	▲7	▲15	▲16	▲18	▲34	▲11	▲18	▲29

2021年度より、一部製品のセグメント変更を行っております。前年度のセグメント情報についても変更後の区分方法により作成しております。

＊2021年8月6日公表

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

16ページは、セグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。

基礎化学品

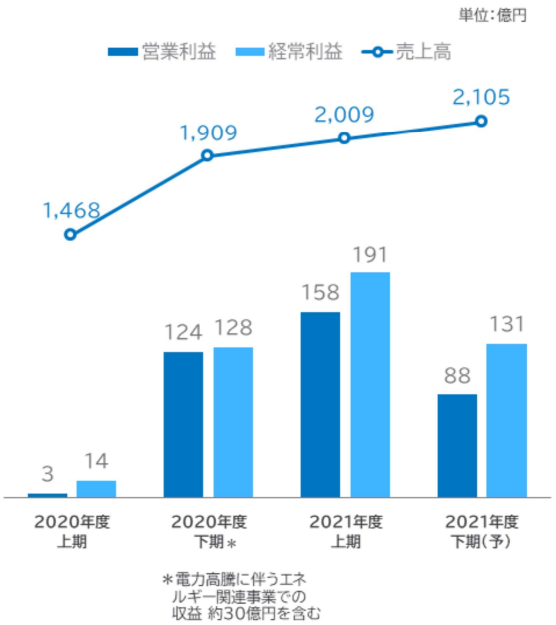
上期実績（前年同期比）

コロナ禍からの回復、市況上昇、ハイパフォーマンスプロダクツの販売数量増加等により大幅な増収増益。

*収益認識に関する会計基準の適用による減収影響：▲70億円

下期予想（上期実績比）

修繕費の増加（4Q：水島工場定修）や、原燃料高などから、減益を予想。メタノール市況の上昇等により、持分法利益は増益を予想。



©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

17ページ、基礎化学品事業についてご説明します。

上期実績は、

コロナ影響を受けた製品の需要回復、市況の上昇、ハイパフォーマンスプロダクツの販売数量増加などにより、大幅な増収、増益となりました。

下期については、

修繕費の増加や原燃料高などが見込まれ、上期に比べ減益を予想しております。

基礎化学品～事業動向～

上期実績（前年同期比）

- **メタノール**：コロナ禍で需要が落ち込んだ前年同期に比べ市況が大幅に上昇。（20年度上期194ドル→21年度上期370ドル）。上期末にかけては、中国石炭価格の高止まりによる中国品の生産減少等もあり、市況が高騰。
  持分法損益は、前年度の税金還付剥落、ブルネイ定修等のマイナス要因があったものの、市況上昇等により増益。
- **メタノール・アンモニア系化学品**：原料価格の上昇があったものの、ネオペンチルグリコールの市況上昇などにより増収増益。
- **ハイパフォーマンスプロダクツ**※1：メタキシレンジアミン（MXDA）の販売数量は①コロナ禍からの回復、②一部顧客の在庫積み増し等から大幅に増加。芳香族アルデヒドの販売も堅調で、増収増益。
- **キシレン分離/誘導品**※2：高純度イソフタル酸（PIA）の市況上昇等により増収増益。
- **発泡プラスチック（JSP）**：原燃料価格の上昇があったものの、自動車向け材料等の販売数量が回復したことなどから、増収増益

下期予想（上期実績比）

- **メタノール**：中国石炭価格の高止まり等により、市況は高水準を予想（上期：370ドル→下期：400ドル）。持分法利益は増益の見通し。
- **メタノール・アンモニア系化学品**：修繕費の増加や、原料高などにより減益を予想。
- **ハイパフォーマンスプロダクツ**※1：引き続き需要は堅調な見通しだが、上期に販売が集中した反動により、販売数量は減少する見通し。
- **キシレン分離/誘導品**※2：修繕費の増加や、スプレッド縮小を見込み、減益を予想。収益安定化に向けた取組みを進めていく。
- **JSP**：原燃料高の影響などにより、減益を予想。

※1 MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等　旧特殊芳香族化学品の製品群　　※2 MX、PIA等　旧汎用芳香族化学品の製品群

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

18ページは基礎化学品の事業動向を示しております。

上期実績は、

メタノールは、市況が前年に比べ大幅に上昇し、持分法損益が増加しました。

ハイパフォーマンスプロダクツは、MXDAの販売数量が増加したほか、芳香族アルデヒドの販売も堅調で、増収増益となりました。

下期については、

メタノール市況は引き続き高水準で推移する見通しで、持分法利益は上期に比べ増加することが見込まれます。

ハイパフォーマンスプロダクツは、MXDAの需要は引き続き堅調な見通しですが上期に集中した反動により、販売数量は減少する見込みです。

機能化学品

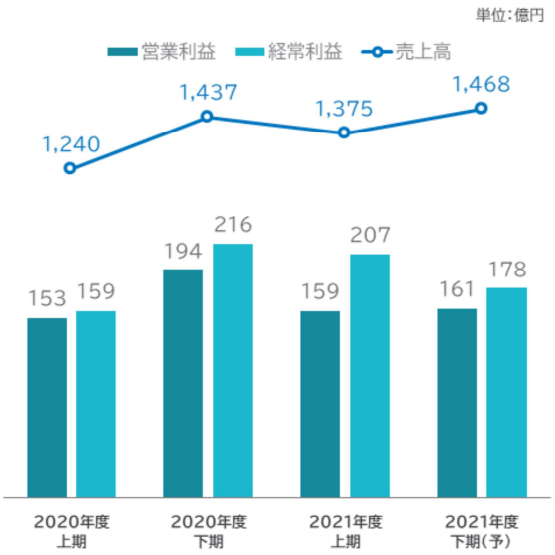
上期実績（前年同期比）

コロナ禍からの回復、半導体向け製品の販売数量増加等により増収増益。光学樹脂ポリマーの販売数量は減少。

*収益認識に関する会計基準の適用による減収影響：▲101億円

下期予想（上期実績比）

光学樹脂ポリマーの販売数量回復を見込むものの、原燃料高や、上期に高水準で推移した電子材料の販売数量減少を見込むことなどから、上期並みの営業利益を予想。



©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

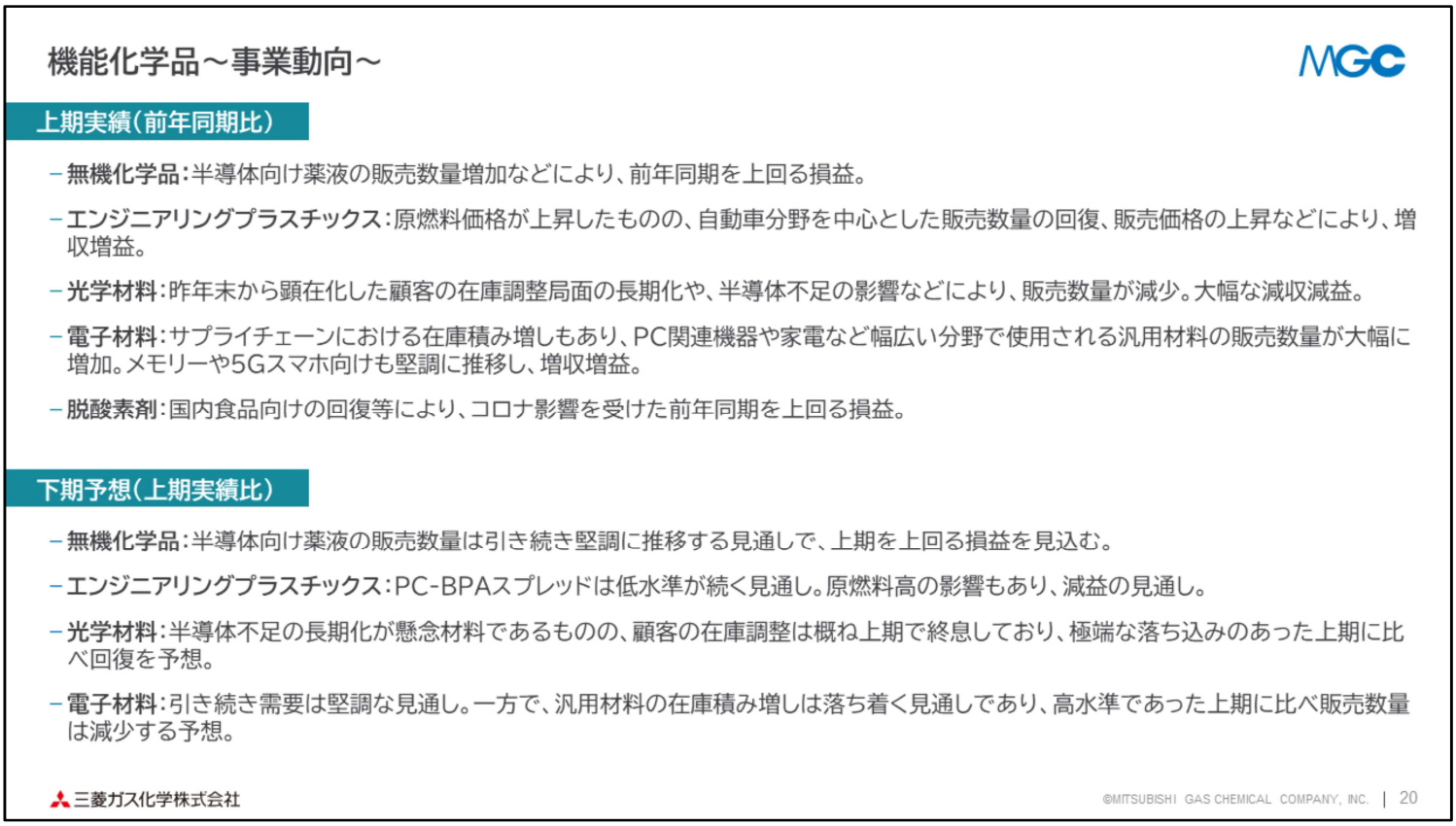
続いて19ページ、機能化学品事業についてご説明します。

上期実績は、

コロナ禍からの回復や、半導体向け製品の販売数量が増加したことなどにより増収増益となりました。

下期については、

光学樹脂ポリマーの販売数量回復を見込むものの、原燃料高の影響や、上期に高水準で推移した電子材料の販売数量減少を見込むことなどから、上期並みの営業利益を予想しております。



20ページは機能化学品の事業動向を示しております。

上期実績は、

無機化学品は、半導体向け薬液の販売数量増加などにより、前年同期を上回る損益となりました。

光学材料は、昨年末から顕在化した顧客の在庫調整や、半導体不足の影響などにより、大幅な減収、減益となりました。

電子材料は、サプライチェーンにおける在庫積み増しの影響などもあり、汎用材料の販売数量が増加したほか、メモリーや5Ｇスマホ向けも堅調に推移し、増収、増益となりました。

下期については、

無機化学品は、半導体向け薬液の販売数量が引き続き堅調に推移する見通しで上期を上回る損益を見込みます。

エンジニアリングプラスチックスは、ポリカーボネート、ビスフェノールAのスプレッドは低い水準が続く見通しで、上期に比べ減益の予想です。

光学材料は、半導体不足の長期化が懸念材料であるものの、顧客の在庫調整は概ね上期で終息しており、極端な落ち込みのあった上期に比べ回復を見込みます。

電子材料は、引き続き需要は堅調な見通しですが、汎用材料の在庫積み増しは落ち着く見込みであり、高水準であった上期に比べ販売数量は減少する予想です。

1 | 2021年度 第2四半期 決算概要

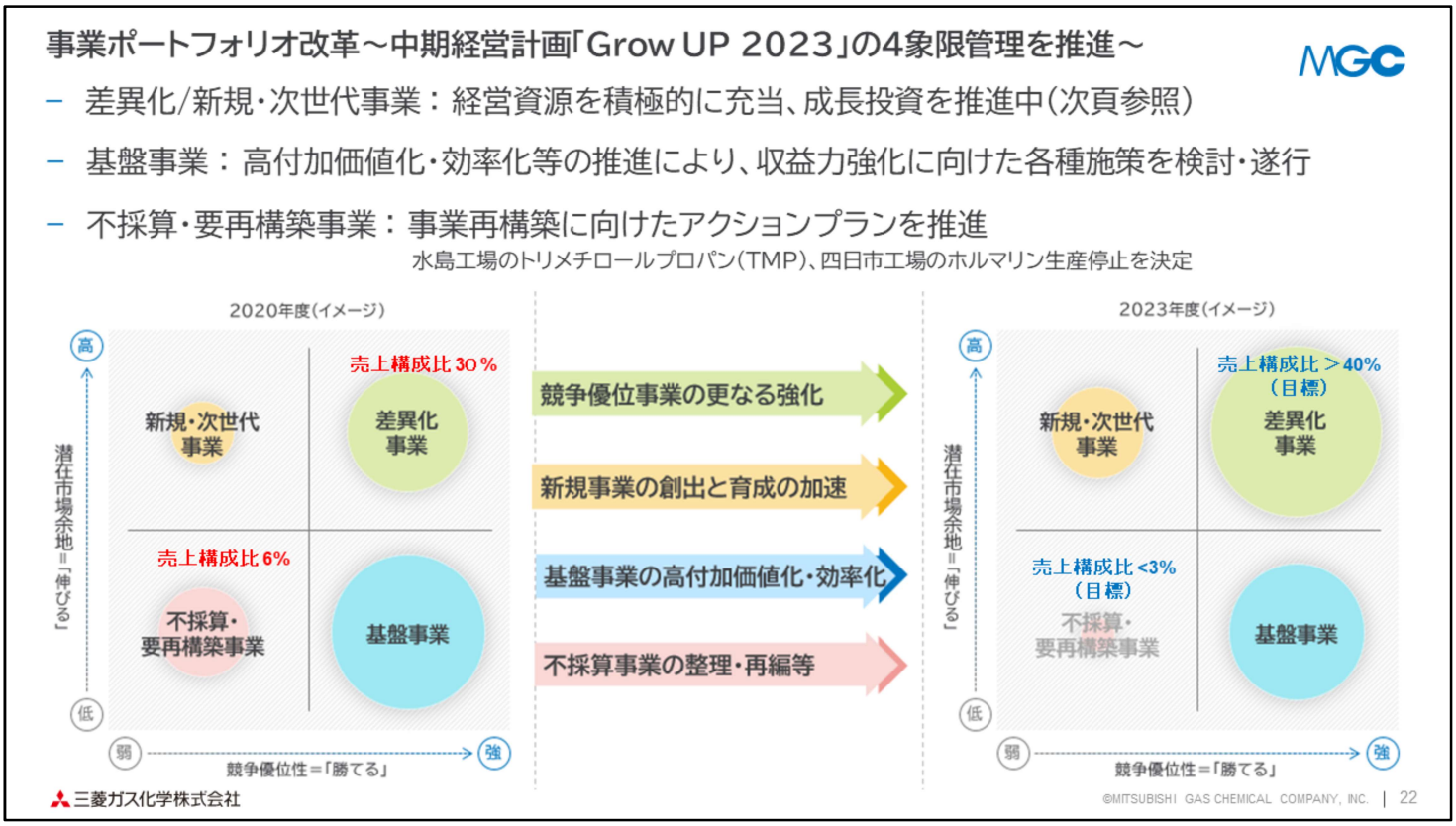
2 | 2021年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて、トピックスについてご説明します。



22ページをご覧ください。5月に発表しました中期経営計画の「事業ポートフォリオ改革」を示しております。

「差異化事業」「新規・次世代事業」に経営資源を積極的に充て、成長投資を推進していきます。

基盤事業は、高付加価値化・効率化を推進することで、収益力を高めます。既に各種施策を検討・遂行中であり、まとまったところでご説明できる案件もでてくるものと考えております。

不採算・要再構築事業についても、アクションプランを推進中です。具体例としては、水島工場のTMP、四日市工場のホルマリンの生産停止を決定いたしました。

これらの事業ポートフォリオ改革、4象限管理の進捗については、
年1回、取締役会にてモニタリングすることとしております。差異化事業の売上構成比40％以上を達成すべくメリハリをつけた経営をより一層推進していきます。

競争優位(”差異化”)事業の成長投資①~MXDA(メタキシレンジアミン)~

最大市場である欧州にMXDA生産拠点を新設

- MXDA※1の需要はインフラ向けコーティング材用途を中心に、今後も安定した成長が見込まれる
  ※1 メタキシレン誘導品のひとつ。エポキシ樹脂硬化剤、ポリアミド(MX ナイロン)、イソシアネートなどに使用。
- 環境にやさしい風力発電用ブレードの補修材用途でも市場が拡大する見通し
- 需要の増加に応えるため、最大市場である欧州(オランダ・ロッテルダム工業地帯)に当社100%出資の製造子会社※2を設立
  ※2 2021年11月の増資(約85百万ユーロ)を経て、生産子会社(特定子会社)となる予定
- 2024年7月の商業運転開始を予定(年産25,000MT)

インフラ用途:防食塗料

インフラ用途:床材

風力発電用ブレード補修材

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

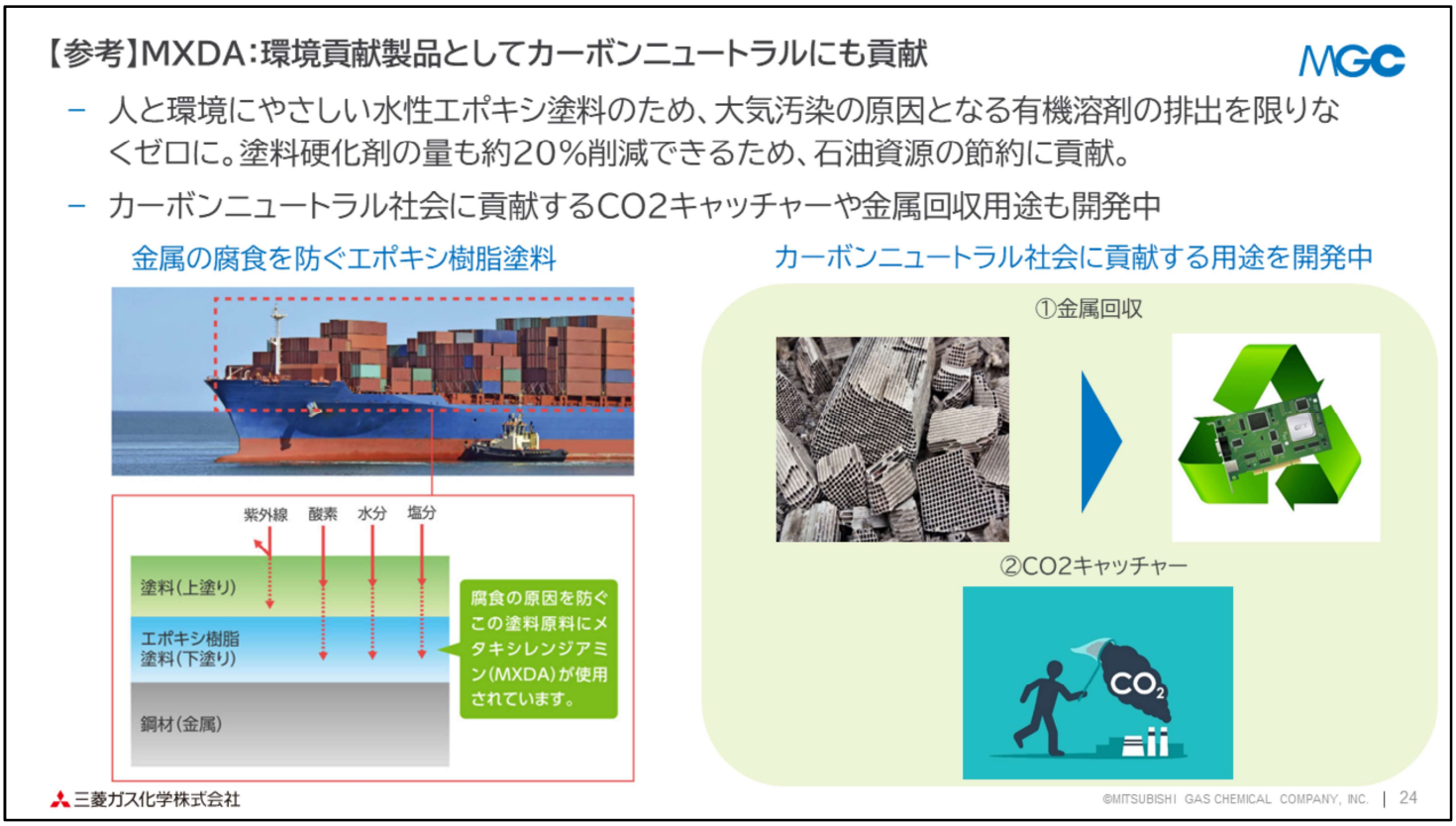
続いて、23ページ以降ではトピックスとして、足元で機関決定しました差異化事業の成長投資をご紹介いたします。

はじめに、MXDAです。

MXDAの需要は今後も安定した成長が見込まれており、環境にやさしい風力発電ブレードの補修材としても市場が拡大する見通しです。

需要の増加に応えるために、最大市場である欧州に生産拠点を設けることを決定いたしました。

２０２４年７月に商業運転を開始する予定です。



24ページをご覧ください。環境貢献製品として、MXDAが優れた特性を持つことを示しています。

MXDAは有機溶剤の排出が限りなくゼロであるほか、塗料硬化剤の量を約20%削減することで石油資源の節約にも貢献している製品です。

さらに、カーボンニュートラル社会に貢献できる金属回収や、今後カーボンニュートラルに貢献するCO2キャッチャーとしての用途も開発中です。

当社は「2050年カーボンニュートラル」を目指しておりますが、MXDAの拡販・用途展開はカーボンニュートラルに大いに貢献できると考えています。

競争優位(”差異化”)事業の成長投資②～芳香族アルデヒド～

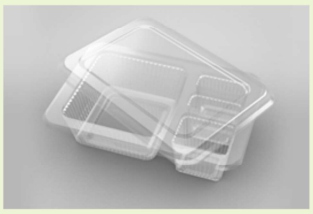
安定成長中の芳香族アルデヒドについて、デボトル・能力増強を推進

- 取り扱いの難しい超強酸触媒による独自製法に強み
- 樹脂添加剤・香料※向けを中心に、年率4～5%で安定的に成長中

※ 樹脂添加剤：ポリプロピレン用透明化核剤の原料
香料：香水や石鹸、シャンプー、洗剤などの香りの成分の原料。洗剤メーカー、香水メーカーなどが使用。

- 需要の伸びに対応すべく、第一段階として、既存設備のボトルネックを解消(2022年7月予定)
- さらに、第二段階として、水島工場での能力増強を決定(2023年11月商業運転開始予定)

樹脂添加剤用途



香料用途

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて、25ページ、芳香族アルデヒドです。

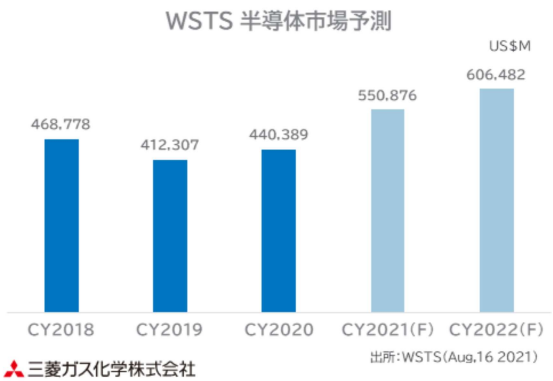
樹脂添加剤・香料向けを中心に、年率5%程度で安定的に成長中の製品で、来年7月に既存設備のボトルネック解消を予定しております。15%程度、生産能力が拡大する見込みです。

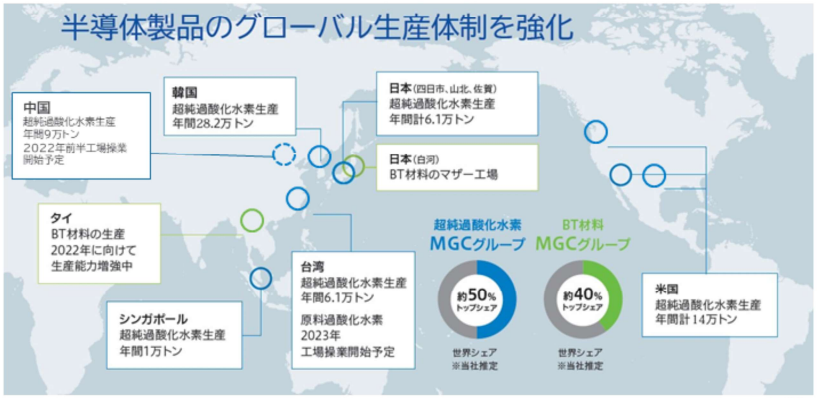
さらに、第二段階として、2023年11月に、水島工場の能力増強を完了する計画です。

競争優位(”差異化”)事業の成長投資③～エレクトロニクスケミカルズ(EL)・BT材料～

さらなる成長が期待される半導体市場に向けて、グローバル生産体制を強化

- BT:旺盛な需要に対応すべく、タイでの生産能力を増強(2022年4月稼働予定)
- EL:台湾で原料過水の工場を建設中(2023年稼働予定)、超純過酸化水素までの一貫生産体制を構築中。中国においても超純過酸化水素の工場を建設中(2022年前半稼働予定)。
- 日本国内で半導体製造基盤を強化する動きも当社グループに追い風
- 今後も半導体市場は一層の拡大が期待されるため、更なる投資も検討





三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

26ページは成長投資の３点目として、EL薬品、BT材料を示しています。

左下のグラフのとおり、半導体市場は成長が期待されており、今後もグローバルな生産体制をより一層強化していく計画です。

BT材料は、来年4月のタイ工場の増強を計画どおりに推進しています。

EL薬品では、台湾での一貫生産体制を構築中のほか、中国においても工場を建設中です。

さらに、日本国内で半導体製造基盤を強化する動きもでてきており、当社にとって非常に良い状況が当面続くものと想定しております。

この機を逸することなく、タイムリーに成長投資を進めてまいります。

2050年カーボンニュートラルの実現に向けてー1

MGC

特徴／強みであるエネルギー事業、メタノール・アンモニア事業、研究開発力を生かし、取組みを推進

1)次世代エネルギーとしてのアンモニア

CO2を排出しないクリーンアンモニアの供給は当社の大きな責務と考えており、当社が間接出資し、現在CCS(CO2地下貯留)を検討中のパンチャ・アマラ・ウタマ(PAU)社(インドネシア)に次ぐ海外ソースの安定的確保に向け、調査・検討を進めています。基礎化学品事業部門内に「燃料アンモニア事業推進チーム」を設置し、国内外他社との協業を含めた燃料アンモニア事業化の検討を加速させるとともに、日本国内への燃料アンモニア供給の早期実現にむけ検討していきます。
(https://www.mgc.co.jp/corporate/news/2021/210806-4.html)

2)環境循環型メタノール構想

当社が掲げる「環境循環型メタノール構想」について、新潟工場のメタノールパイロット設備を用いて実証試験を開始しています。9月にはCO2と水素を原料として、国際規格を満たすメタノールを得ることに成功しています。
(https://www.mgc.co.jp/corporate/news/2021/210806-4.html)

3)新潟エリアを中心とする取り組み

2021年5月28日付で石油資源開発株式会社との共同でのCO2の有効活用検討についてニュースリリースしました。また、CCUS(CO2回収・貯留・活用)を活用した「ブルー水素」をメタノールの原料とすることで、新潟県への水素利活用促進に向けた貢献も視野に検討を進めています。
(https://www.mgc.co.jp/corporate/news/files/210528.pdf)

メタノールパイロット設備(新潟工場)

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて、27ページ、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組みをご紹介します。

当社はエネルギー、メタノール・アンモニアという特徴ある事業を展開しているほか、環境貢献に資する研究開発力も有しており、カーボンニュートラルの実現に向けてさまざまな面から貢献できる企業であると自負しております。

ここでは具体的な取組み事例として、5点ご紹介します。

一点目は、脱炭素社会の実現に向けて注目されている「アンモニア」です。CO2を排出しないクリーンアンモニアの供給は当社の大きな責務と考えており、海外ソースの安定的確保に向けて、調査・検討を進めております。

社内に新たな検討チームを設け、他社との協業を含めた事業化の検討を加速させていきます。

二点目は、「環境循環型メタノール構想」です。新潟工場のメタノールパイロット設備で実証実験を開始しており、9月にはCO2と水素を原料として国際規格を満たすメタノールを得ることに成功しています。今後はさらなるスケールアップを追求するとともに、国内外の企業や自治体との産業横断的な連携も図り、脱炭素化や循環型社会のための総合的な取り組みを進めていきます。

三点目は、新潟エリアでの取組みです。石油資源開発と共同で、CO2を有効活用した事業の可能性について、検討を進めております。CCUSを活用した「ブルー水素」をメタノールの原料とすることなど、新潟における水素利活用の促進を検討していきます。

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて－2

4)水素キャリアや燃料としてのメタノール

当社では独自技術によりメタノールから水素を製造するプロセスを開発、販売しており、分散型、オンサイトでの水素製造・供給方法として一定の地位を築いています。このプロセスは、前述の「環境循環型メタノール構想」と組み合わせ、カーボンニュートラル実現ならびに温室効果ガス（以下、GHG）削減のための現実的な水素製造・供給の方法として有効と考えています。

（https://www.mgc.co.jp/products/nc/mh-md/）

5)地熱発電、LNG発電、バイオマス発電によるCO2排出抑制

当社が出資しLNG発電を行う福島天然ガス発電所の電力をGHG排出量の低い「移行エネルギー」として活用しつつ、再生可能エネルギー事業拡大を目指し、現在建設中の安比地熱発電所の他、新規地熱発電やバイオマス発電などの検討も積極的に進めています。

（https://www.mgc.co.jp/company/basic-chemicals/geothermal.html）

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

28ページをご覧ください。

4点目として、「水素キャリアや燃料としてのメタノール」をご説明します。

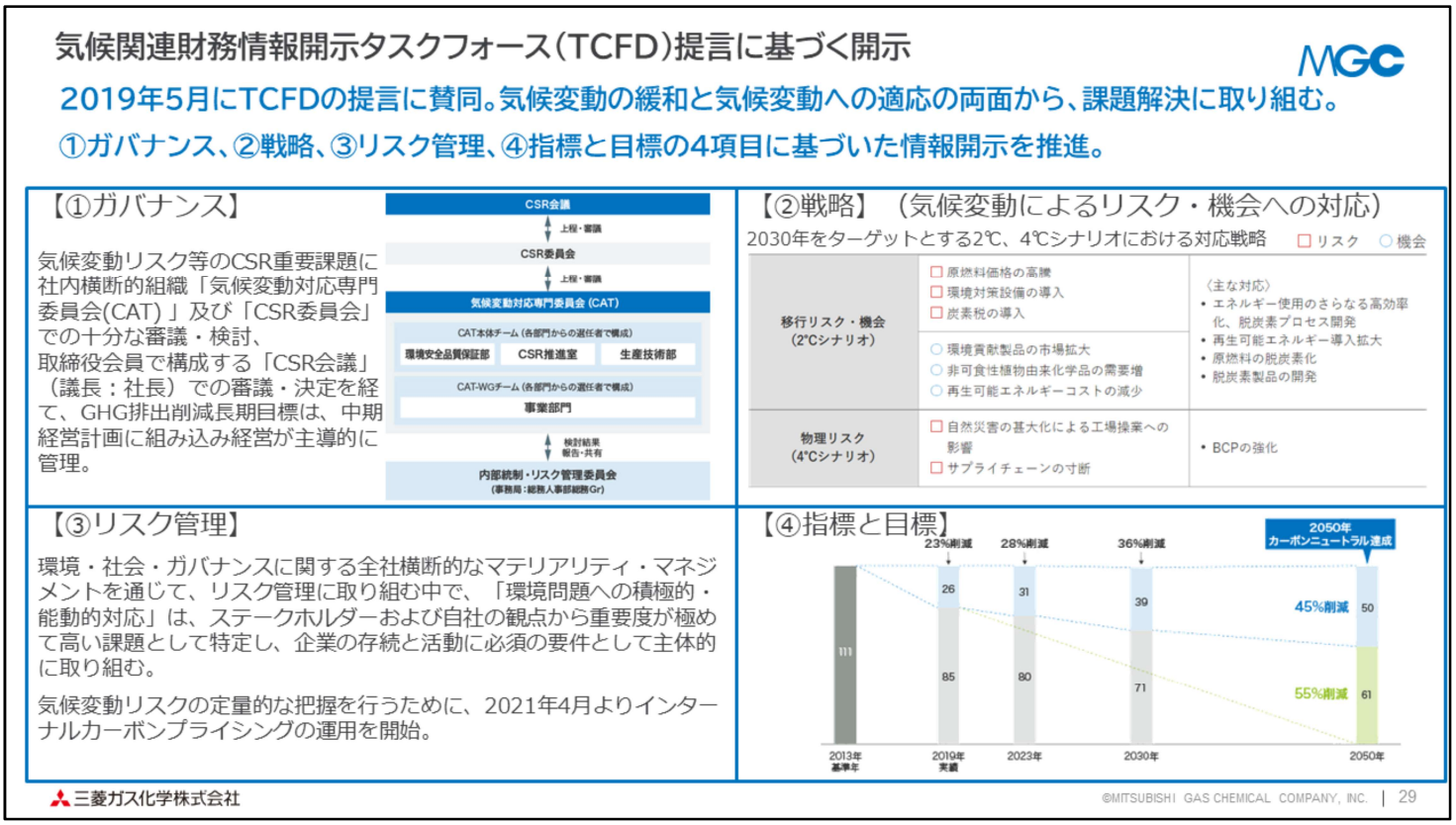
当社では独自技術によりメタノールから水素を製造するプロセスを既に開発しており、販売実績もございます。このプロセスは先ほどの「環境循環型メタノール」と組み合わせることで、カーボンニュートラル実現に貢献できるものと考えており、今後も積極的に展開してまいります。

最後に5点目として、地熱発電、LNG発電、バイオマス発電によるCO2排出抑制です。

当社は化学会社としては珍しく、LNG発電、地熱発電に携わっております。これまで培ってきた技術を活かし、新規地熱発電やバイオマス発電なども検討していきます。

以上、カーボンニュートラルの実現に向けた取組みを5点ご紹介しました。

なお、当社は、CO2メタノール、CO2ポリカーボネートについて、経済産業省のカーボンニュートラルのプロジェクトにかかわっていくことも想定しており当社単独ではなく、国や他企業と連携しながら、オールジャパンでカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。



最後に、29ページをご覧ください。

当社のTCFDの取り組みを示しております。「ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標」の4項目に基づいた情報開示を進めてまいります。

私からの説明は以上になります。

Appendix

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

参考：各種指標（1）

単位:億円	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021(予)
設備投資額 [上期]	309 [177]	254 [138]	222 [103]	305 [149]	350 [137]	309 [139]	392 [186]	423 [224]	402 [158]	670 [220]
減価償却費 [上期]	230 [107]	235 [114]	237 [115]	267 [131]	256 [122]	270 [131]	274 [135]	295 [144]	306 [151]	320 [158]
研究開発費 [上期]	151 [72]	161 [80]	168 [80]	189 [92]	192 [96]	189 [95]	186 [91]	196 [94]	199 [98]	215 [101]
年度末人員(人)	5,323	5,445	8,254	8,176	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	10,122
一株当たり当期純利益 (円/株)*	▲35	66	192	154	222	281	257	101	173	240
総資産経常利益率 (%)	4.6	4.8	5.8	5.9	8.4	10.6	8.7	3.9	6.2	8.0
自己資本当期利益率 (%)	▲2.8	5.0	12.6	9.0	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	9.4
投下資本利益率 (%)	5.8	6.1	7.2	7.3	10.4	13.2	10.9	4.9	7.7	9.8
配当金(円/株)* [うち2Q末]	24.0 [12.0]	24.0 [12.0]	28.0 [14.0]	32.0 [16.0]	38.0 [16.0]	59.0 [24.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	80.0※ [45.0※]

*当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

※記念配当10円を含む

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

参考：各種指標（2）セグメント別 設備投資額・減価償却費（連結）

単位:億円		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020
設備投資額※	天然ガス系化学品	63	45	57	53	90	60	57	72	基礎化学品	194
	芳香族化学品	57	23	40	106	105	113	146	150		
	機能化学品	150	112	76	99	81	110	144	146	機能化学品	186
	特殊機能材	33	66	43	38	66	19	23	26		
	その他	3	5	3	7	5	6	21	27	その他	21
	合計	**309**	**254**	**222**	**305**	**350**	**309**	**392**	**423**	合計	402
減価償却費	天然ガス系化学品	62	63	69	61	50	51	55	63	基礎化学品	163
	芳香族化学品	58	41	39	82	85	85	87	95		
	機能化学品	77	95	92	88	86	91	87	87	機能化学品	130
	特殊機能材	27	31	33	30	30	35	36	38		
	その他	3	3	3	3	3	5	8	10	その他	12
	合計	**230**	**235**	**237**	**267**	**256**	**270**	**274**	**295**	合計	306

※固定資産計上ベース

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

参考：各種指標（3）

単位：億円	2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期実績	下期予想
為替(JPY/USD)	111	111	110	112	109	109	107	105	110	113
為替(JPY/EUR)	126	133	130	127	121	120	121	126	131	130
原油価格(Dubai) (US$/BBL)	50	62	73	65	64	56	37	52	69	85
メタノール（US$/MT) アジアスポット平均価格	296	381	408	335	277	245	194	319	370	400
原料キシレン(US$/MT)	650	725	845	730	705	640	420	560	780	870
ビスフェノールA (US$/MT)＊	1,100 ~1,300	1,200 ~1,700	1,600 ~1,900	1,200 ~1,800	1,000 ~1,450	1,050 ~1,350	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,750 ~3,700	1,700 ~3,200
ポリカーボネート (US$/MT)＊	2,500 ~2,900	2,900 ~3,900	2,700 ~3,800	2,100 ~2,800	1,900 ~2,250	1,650 ~2,000	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	3,100 ~4,050	2,200 ~4,000

＊期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD)　：1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)
為替(EUR)　：1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)
原油(Dubai)：1＄/BBLの上昇(下落)で、1.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
メタノール　：メタノール市況1＄/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

【参考】:主要製品群(旧セグメント)別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

単位:億円	2020年度実績			2021年度前回予想*			2021年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	2,666	3,290	5,957	3,300	3,300	6,600	3,358	3,541	6,900
天然ガス系化学品	654	930	1,585	973	980	1,953	1,049	1,111	2,160
芳香族化学品	849	984	1,834	987	993	1,980	976	1,008	1,985
機能化学品	964	1,110	2,074	1,028	1,061	2,089	1,023	1,105	2,128
特殊機能材	293	329	623	351	306	657	353	363	717
全社/調整	▲96	▲64	▲160	▲41	▲40	▲81	▲43	▲48	▲91
営業利益	143	301	445	240	260	500	300	229	530
天然ガス系化学品	▲35	45	9	29	26	55	54	27	82
芳香族化学品	38	79	117	85	62	147	104	60	164
機能化学品	103	124	228	64	129	193	78	94	173
特殊機能材	49	69	119	81	61	142	80	66	146
全社/調整	▲13	▲18	▲30	▲19	▲19	▲38	▲17	▲19	▲37
経常利益	165	336	502	310	300	610	387	292	680
天然ガス系化学品	▲23	49	26	53	56	109	85	75	161
芳香族化学品	37	78	116	86	61	147	105	56	161
機能化学品	107	148	255	99	141	240	120	113	234
特殊機能材	51	68	119	86	61	147	86	65	151
全社/調整	▲8	▲7	▲15	▲16	▲18	▲34	▲10	▲18	▲29

注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

＊2021年8月6日公表

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

【参考】:各報告セグメントの主要製品

報告セグメント	主要製品群 (旧セグメント)	主要製品
基礎化学品	天然ガス系化学品	・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	・ハイパフォーマンスプロダクツ(MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等) ・発泡プラスチック事業(子会社JSP)
機能化学品	機能化学品	・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチックス(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

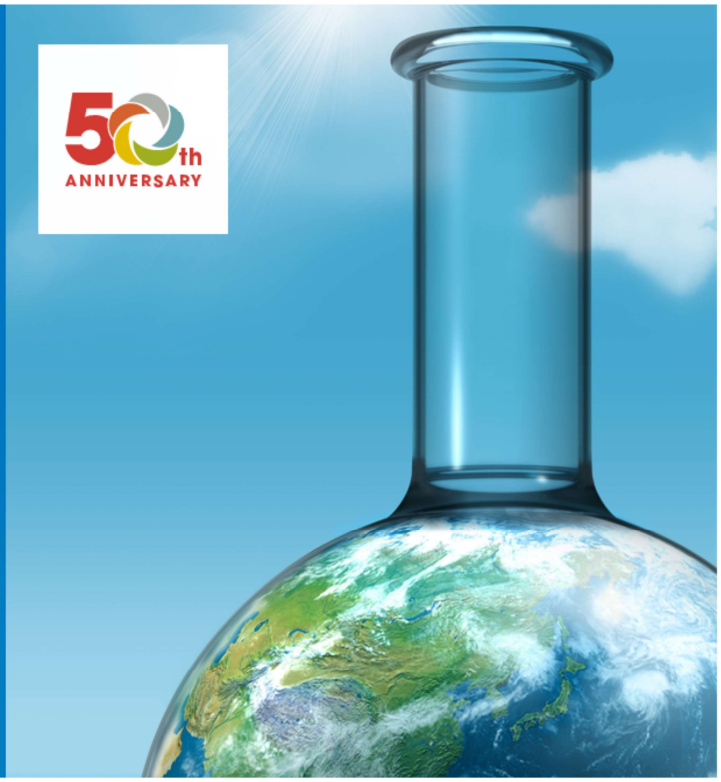
見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部　IRグループ

TEL　03-3283-5041
URL　https://www.mgc.co.jp/

IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。